

鎌ヶ谷・おふだづくし ～信仰の玉手箱～



郷土資料館で調査・収集した民俗資料に「おふだ」があります。

おふだは、護符ともいい、神社や寺などで配布される、小さな紙や木の板などに文字・記号・神や仏の絵などが記されたものをいいます。各家では、神棚や仏壇に納めたり、門・戸口・柱などに貼っておいたりします。また、携行が可能な身につけるものは「お守り」とよんでいます。現在でも、家内安全・交通安全、学業成就などのおふだを広く見かけます。

科学や医療が発達していなかった江戸時代から明治・大正・昭和戦前のころまでは、五穀豊穡、盗賊・火災・雹除け、安産・子育て、武運長久などいろいろな目的のおふだが発行されていました。

市内でも、旧家で大量のおふだを確認されています。この展示では、それらをご紹介します、昔の人たちの信仰にせまってみます。特に初富の個人宅から寄贈いただいた約2000点から選び出したものを中心に、前期と後期に分けて展示します。

内容

(前期：2月17日④～3月18日⑥) ・神社発行のおふだ ・佐津間でみつかった江戸時代のおふだ
・おふだのある風景

(後期：3月24日④～5月27日⑥) ・寺院発行のおふだ ・日蓮宗地域のおふだ ・おふだのある風景